

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171300656
法人名	社会福祉法人 日本ライン老人ホーム
事業所名	日本ライングループホーム
所在地 (電話番号)	〒501-0071 岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1 (電 話) 0574-28-9052
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒501-6232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年7月28日

## 【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	9 人
常勤	3人, 非常勤 9人, 常勤換算 7.1人

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有( 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.4歳	最低	78歳	最高	94歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	太田病院 , 太田メディカルクリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

坂祝町の中心街から離れた、緑豊かな所に位置し、中央公民館や社協、町営プール、総合運動場等の生涯学習施設や社会福祉施設が隣接している生活環境に恵まれた所に位置している。施設内は木がふんだんに使用されており、落ち着いた雰囲気を持っている。

このホームの特徴として訪問時の入居者は、比較的軽度の要介護者であったが、廃物を利用し、クッション、巾着、ゴミ箱などを作り、町民まつりに出品したり、家族へプレゼントしたり自分の持てる力を使って楽しんでいるという印象を受けた。雨の日や風の強い日以外は毎日、利用者が希望する散歩や近くのスーパーでの買い物、喫茶店等に出掛け、月に1回は外食も楽しんでいる。スタッフは自分達で作った理念を日常生活の支援で実践に移し、利用者は家庭的な環境の中で地域に自然に溶け込んで活き活き、伸び伸びと日々を過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 社会福祉法人日本ラインの理念ではなく、グループホーム独自の理念を作成するという改善をしており、職員全員の話し合いと提案の中で作られたため、具体的で分かり易い理念となっている。各種マニュアルが整備されており、マニュアルを活かした日常生活の支援活動や、勉強会等が行なわれている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービス制度に変わって初めての評価となるため、自己評価する段階で職員に変更点等を説明し、職員全員で自己評価を行なっている。また、前回の外部評価の際の自己評価及び評価機関による評価結果が、訪問者の誰でもが見られるように玄関に置いてある。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、18年4月に発足し、既に8回開いている。メンバーも開催を重ねる毎に充実してきている。民生委員が1人から2人に、利用者家族も代表ではなく、参加できる家族全員となっている。役場担当者、地域包括支援センター、地域の保育園園長、法人次長と施設管理者と多彩な顔ぶれとなっており、出てきた意見や要望は、会議録に記録すると共に、施設運営に反映させるため、職員全員で話し合い、実践できることはすぐに実行している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者や家族の意見や苦情を受け付ける体制が出来ていて、意見箱も玄関に設置してある。また、運営推進会議において、家族から意見を出し易い雰囲気作りができており、毎回意見や要望が出ている。例えばホームのたよりに利用者の暮らしの写真等を掲載して欲しいとか、クラシックのBGMを流して欲しい等の意見にもすぐに対応している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設が生活環境の良い地に位置しており、住宅街が近辺にはないというハンディがあるため、地域との連携の確保は難しい現況である。しかし、地域のふれあいサロンや老人会に積極的に参加するなど、地域とのふれあいに強い意欲を持っている。また、散歩や買い物、喫茶店へ出掛けた時など、外出時には必ず挨拶を交わすことや、馴染みの人々とコミュニケーションをとる取り組みをしている。更に施設全体で中学生の体験研修やボランティア等の受け入れを積極的に行なっている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の理念は、「家族とのつながりを大切にします。」「地域とのつながりを大切にします。」「愛を持って接します。」の3つである。この理念は、職員全員の話し合いにより、独自のものとして作りあげられたものである。内容が誰にでも分かり易く、地域密着型サービスに合った理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員の話し合いの中で出来たもので、管理者、職員等、全員が共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の周囲に住居がないハンディはあるが、地域のふれあいサロンや老人会に参加するなど、地域との連携に取り組む工夫がある。また、散歩や買い物、喫茶店、外食等の外出支援を積極的に実践しており、それぞれ馴染みの人々とあいさつ等を通してコミュニケーションを図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員が自己評価することで気づいたことが多く、また、外部評価結果をみんなで検討することで、職員全員がサービスの質の向上意欲が芽生え、改善の工夫がなされている。今回も、管理者が事前に職員全員に説明し、全員が理解した上で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、これまでの開催回数は既に8回を数え、施設の概要や運営に関する説明や報告をしている。また、認知症の理解についても取り組みをしており、今後は外部評価結果の報告等も行い、地域密着型サービスの理解を求めることにしている。運営会議には、参加可能な家族に全て参加していただき、運営に対して出た意見は職員で検討し、やれるものは即刻実施するなど、運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、役場の担当者が必ず参加しており、市の取り組み等の情報を得ている。また、会議を開催することに役場担当者と付き合いが深くなったことで、会議以外のことで役場を訪問することも多くなり、施設が抱える課題を気軽に相談できるような関係が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、面会時に利用者の日々の暮らしの状況や健康状態、金銭管理状況等を報告をしている。また、運営推進会議で家族からの要望で、施設内での普段の様子や行事参加の様子を写真に撮ってホームのたよりに掲載し、日常生活の状況をわかりやすく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見は、会議録に記載して、職員のミーティングで検討している。また、通常出ている意見や不満、苦情等も必ず記録し、職員全員で話し合い、やれるものは直ぐに実践する取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長や管理者は、職員の交代等が利用者の混乱を招くことを理解しており、なるべく職員が辞めないように、職員に対して働きやすい職場を提供する取り組みの工夫している。また、職員の交代があったときは、運営推進会議等で随時報告し、家族にも伝え、ダメージを最小限にとどめるようにしている。開設以来、常勤の職員が辞めた事例はなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はリーダー研修や実践研修を受講しており、他の職員も実践研修を順次受講している。サービスの質の向上を図るためには、内外の研修は欠かせないことを施設長が深く理解しており、職員に計画的に研修を受ける機会を与え、研修を受けやすい体制づくりの取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、毎月1回、親会社の慈恵会が経営する6つのグループホーム協議会で開催する向上委員会に出席し、情報の交換を行なっている。集めた情報を職員全員の会議で報告し、サービスの質の向上に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する本人や家族に、施設の見学を勧めている。また、体験入所の要望も受けており、本人や家族が安心して入居できる取り組みをしている。本人が自然に馴染めたところで、入所してもらうことにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員全員は、利用者が一方的にケアを受ける立場ではなく、共に支えあうことを理解しており、利用者を人生の先輩として敬い、日々の生活の中で、共に過ごし、学び、支えあう関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、本人がどう暮らしていきたいのか、日々をどう過ごしたいのかを把握している。1日の生活の流れを利用者全員均一にしてしまうのではなく、9人の利用者がそれぞれに役割を持ち、やりたいことをやり、行きたい所に出かけられる支援体制が出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの状況を勘案した上で、利用者の希望や要望、家族等の意見を聞き、アセスメント等の記録を基に、介護支援専門員と職員全員で話し合い、本人本位のケア、本人のための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、定期的に介護計画の見直しを行なっている。また、日々の生活の状況を確認し、利用者急な変化のあるときは、その都度見直しを行っており、家族にも直ちに連絡し了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が望むリハビリを支援するため、近くのデイサービスに同行したり、定期的に外食支援をしたり、家族の都合がつかないときに利用者を掛かりつけの医者に連れて行くなど、自主サービスを多角的に実施している。また、利用者が入院した場合は、お見舞いや早期退院に向けた相談等の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的受診は、家族にお願いしている。緊急時は、家族に連絡し了承を得た上で、施設の主治医に診せている。また、入所時には、施設の主治医のことも、ご家族によく説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設は、現在要介護度1及び2、3の方が中心で重度の入居者はいない。また、入所契約時に、重度化した場合は母体の特養に移ってもらうことを条件としているため、重度化に対する支援方針は持っていない。	○	今後、重度化に対する支援のあり方については、運営推進会議での意見や管理している役場の方針等を踏まえ、地域密着型サービスの主旨を考慮したうえで、施設としての方針を検討して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては、みんなで常に話し合い、確認しあっている。利用者への言葉かけや個人記録簿についても細心の注意を払った取り組みをしている。マニュアルが整備しており、実践に活かせるよう勉強会もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、本人のペースを最優先することを職員全員が承知している。散歩が好きな人、買い物好きな人、喫茶店に行きたい人、歌を唄いたい人等、個々人の希望に合わせた支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食事の準備から、食後の後片付けまで自分の出来る役割を楽しみながら果たしている。食事中も職員との楽しい会話が飛び交い、自分たちで作った食事を一緒に食べている。月に1度、回転寿司等の外食を楽しむ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によっては、曜日や時間にかかわらず、いつでも入浴できる体制が出来ている。洗髪の嫌いな人には、シャンプーハットを使用し、出来るだけ顔に水がかからないような工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事仕事の好きな人には食事の準備や施設内の清掃を、園芸の好きな人は花作りや野菜作りを、読み書きなど勉強の好きな人には算数や漢字のプリントの採点を、というようにその人が得意としていることを活かした役割や楽しみごとを日常的に行なって、張り合いや喜びのある生活の支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨や風の強い日以外は、毎日、利用者の誰かが散歩や買い物、喫茶店、公民館の図書館、デイサービス、かかりつけの医者等へ出かけている。最高齢の方が時々施設に残るが、その場合でも少しでも気分転換ができるように、施設のベランダや玄関先にベンチを設置している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の玄関先は自動車等の往来も少なく、外出するときも安心感があり、施設の鍵はかけていない。ただ利用者の外出が多いため、玄関に人の出入りが分かるセンサーが取り付けられており、センサーが鳴るたび職員が確認している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、防災訓練を実施している。主に、有事を想定しての避難訓練を繰り返し実施している。また、災害対策マニュアルが作成してある。	○	地域密着型サービスを提供していく中で、地域とのふれあいを確保するために、今後は、初期消火訓練等に地域の人の参加を呼びかける等のいろいろな働きかけの工夫を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体の状況に合わせてカロリーや栄養の計算がされた食材が毎日配達される。また、日々、利用者の健康状態を把握しており、食事のバランスや水分の摂取には注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は木材をふんだんに使用しており、落ち着いた雰囲気を醸しだしている。緑豊かな地に建ており、明るく、静かな施設である。ベランダからは、四季折々に変わる風景を眺めることが出来、ホッと安心のできる居住空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく明るい居室で清潔感があふれ、全室にエアコンは勿論、花粉症の利用者のため空気清浄機が設置してある。それぞれの部屋は、利用者が昔使用していた馴染みの調度品や写真等が飾っており、入居者が心地よく過ごせる配慮がなされている。		